

高等学校 芸術（書道）

解答についての注意点

- 1 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。
- 2 大問 ～大問 については、マーク式解答用紙に、大問 ～大問 については、記述式解答用紙に記入してください。
- 3 解答用紙が配付されたら、まずマーク式解答用紙に受験番号等を記入し、受験番号に対応する数字を、鉛筆で黒くぬりつぶしてください。
記述式解答用紙は、全ての用紙の上部に受験番号のみを記入してください。
- 4 大問 ～大問 の解答は、選択肢のうちから、問題で指示された解答番号の欄にある数字のうち一つを黒くぬりつぶしてください。
例えば、「解答番号は 」と表示のある問題に対して、「3」と解答する場合は、解答番号 の欄に並んでいる ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を黒くぬりつぶしてください。
- 5 間違ってぬりつぶしたときは、消しゴムできれいに消してください。二つ以上ぬりつぶされている場合は、その解答は無効となります。
- 6 その他、係員が注意したことをよく守ってください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

1

次の図版A～図版Gについて、それぞれア～ウの問いに答えよ。

図版A



ア 筆者を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 鮮于樞 2 趙孟頫 3 祝允明 4 董其昌 5 米芾

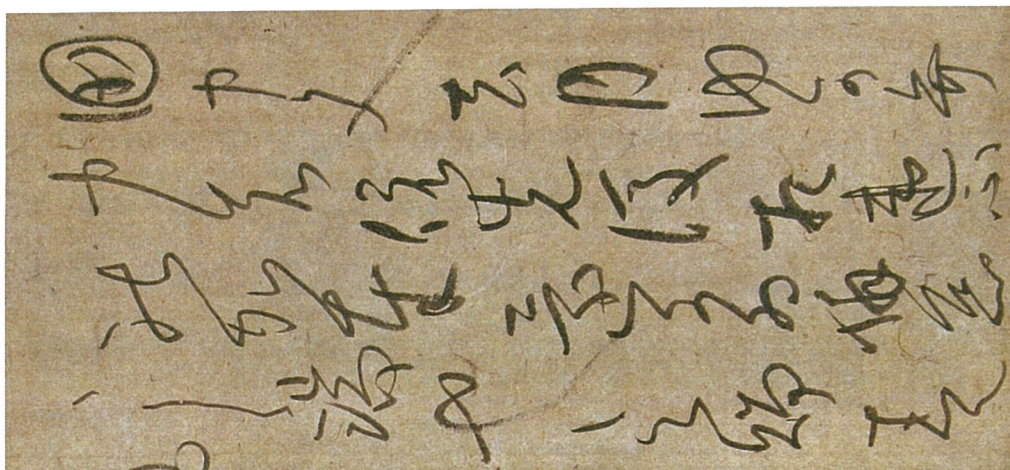
イ 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 漢汲黯伝 2 李太師帖 3 蘭亭十三跋 4 擬山園帖 5 行書琵琶行

ウ 図版Aに関する説明1～5のうち、誤っているものを一つ選べ。解答番号は

- 1 至大三年（一三二〇）、筆者が呉興から舟で大都（今の北京）へ向かう途中、独孤から宋拓の集字聖教序を譲り受けて鑑賞し、書いたものである。
- 2 筆者が一月余りの船行中に日を追って記した作品である。
- 3 この作品は、筆者の書に対する考えを知る上でも、きわめて貴重な書論となっている。
- 4 乾隆年間に、譚組綬の所蔵となったが、その歿後、火災に遭い現状のように焼残した。
- 5 筆者は、宋の皇族の末裔でありながら、故国滅亡の憂きめに遭ったが、その後、ほどなく元の初代皇帝に抜擢され、元朝に仕えた。

図版 B



ア 筆者を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 藤原定家 2 藤原佐理 3 藤原兼家 4 藤原伊経 5 藤原道長

イ 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

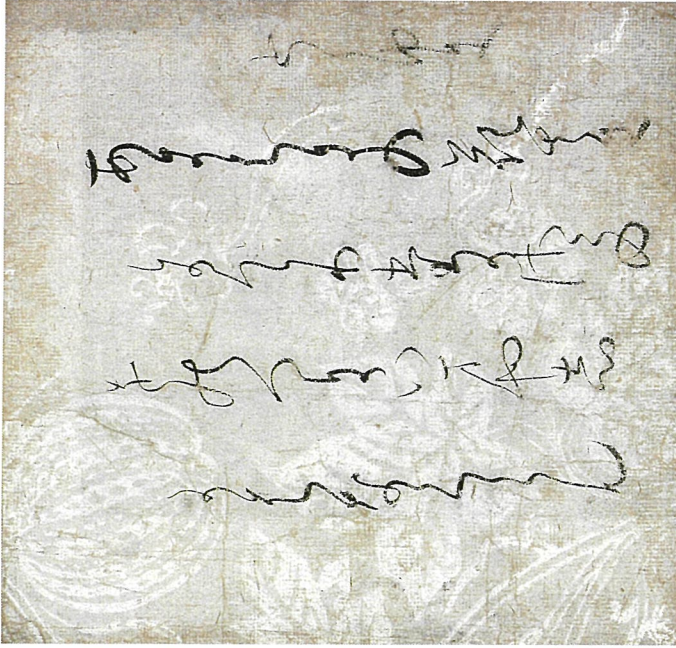
- 1 国申文帖 2 屏風土代 3 離洛帖 4 白氏詩卷 5 智証大師諡号勅書

ウ () に入る適切な語句を1～5の中から一つ選べ。解答番号は

平安時代中期の能書のうち、図版Bの筆者、小野道風、藤原行成の三人を三賢または三跡(三蹟)と呼ぶことがある。また、小野道風の書跡を「野跡」、藤原行成の書跡を「()」という。

- 1 光跡 2 権跡 3 行跡 4 門跡 5 真跡

図版C



ア 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 升色紙 2 継色紙 3 寸松庵色紙 4 小色紙 5 大色紙

イ () に入る適切な語句の組合せとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は

三色紙は古来有名で、色紙の三絶と称されている。行書きではなく散らし書きで書かれている。伝称筆者は、(①) が小野道風、(②) が紀貫之、(③) が藤原行成とされている。

- | | | | |
|---|---------|---------|---------|
| 1 | ① 升色紙 | ② 寸松庵色紙 | ③ 継色紙 |
| 2 | ① 寸松庵色紙 | ② 升色紙 | ③ 継色紙 |
| 3 | ① 継色紙 | ② 寸松庵色紙 | ③ 升色紙 |
| 4 | ① 寸松庵色紙 | ② 継色紙 | ③ 升色紙 |
| 5 | ① 継色紙 | ② 升色紙 | ③ 寸松庵色紙 |

ウ () に入る適切な語句を1～5の中から一つ選べ。解答番号は

図版Cは、『古今和歌集』四季の歌を抜き書きしたもので、もとは()であった。茶人の佐久間実勝の茶室に一部の断簡が伝わった。

- 1 折本 2 掛物 3 粘葉装の冊子本 4 卷子本 5 列帖装の冊子本

図版 D



ア 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 散氏盤 2 大盂鼎 3 召尊 4 泰山刻石 5 毛公鼎

イ () に入る適切な語句を1～5の中から一つ選べ。解答番号は

図版 D は、古代中国において青銅器に鑄込まれた又は刻み込まれた文字であり、一般的に () と呼ばれている。

- 1 甲骨文字 2 金文 3 籀文 4 古文 5 篆文

ウ 次の青銅器の写真①～③の名称の組合せとして正しいものを1～5から一つ選べ。

解答番号は

①



②

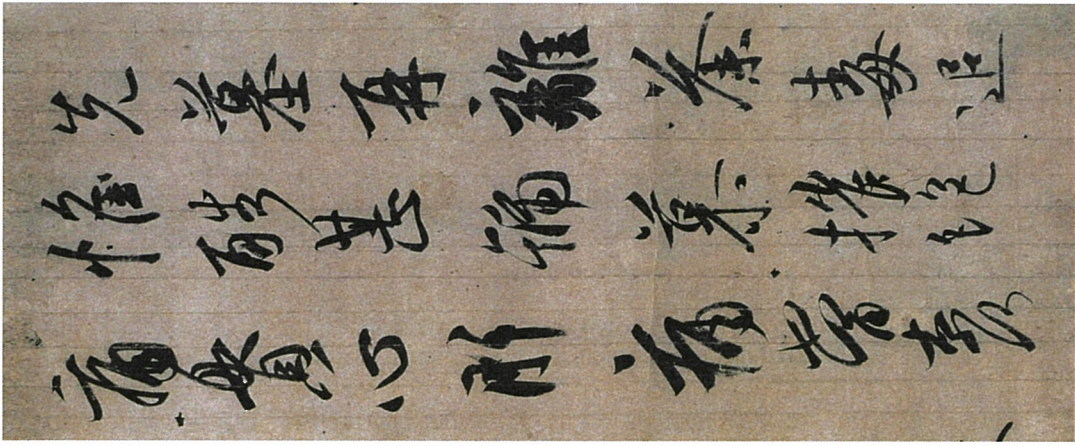


③



- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| 1 | ① 毀 | ② 権 | ③ 尊 |
| 2 | ① 壺 | ② 盤 | ③ 鼎 |
| 3 | ① 鼎 | ② 毀 | ③ 壺 |
| 4 | ① 尊 | ② 権 | ③ 鼎 |
| 5 | ① 壺 | ② 盤 | ③ 尊 |

図版 E



ア 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 争坐位文稿 2 喪乱帖 3 初月帖 4 伯遠帖 5 中秋帖

イ () に入る適切な語句を1～5の中から一つ選べ。解答番号は

図版 E は () を模写したものである。

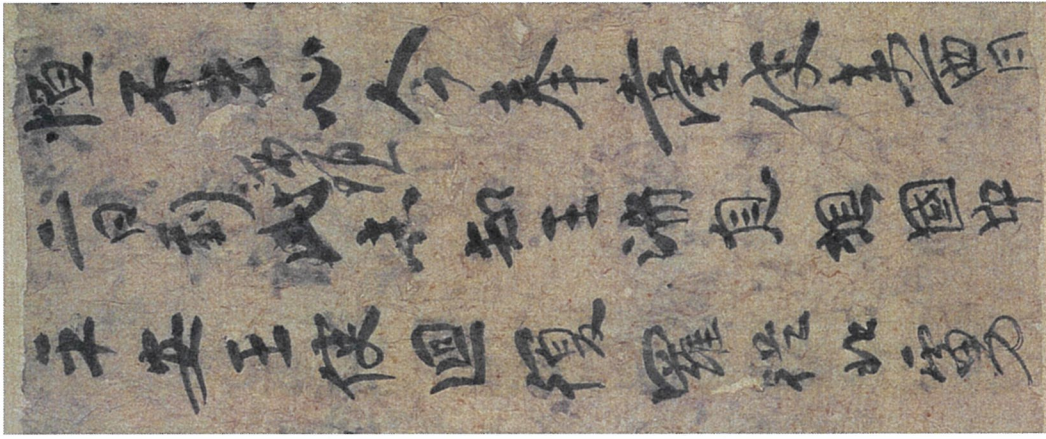
- 1 王献之の書簡 2 陸機の書状 3 鍾繇の拓本 4 王羲之の尺牘
5 顔真卿の草稿

ウ 図版 E に関する①～④の説明のうち、誤っているものはいくつあるか、あとの1～5から一つ選べ。解答番号は

- ① 双鉤填墨で精巧に模写されている。
② 東大寺に伝わり、現在は正倉院に所蔵されている。
③ 第二帖は二謝帖、第三帖は得示帖といわれている。
④ 二枚の紙に十二行で書かれている。

- 1 なし 2 一つ 3 二つ 4 三つ 5 四つ

図版 F



ア 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 李柏尺牘稿 2 祭姪文稿 3 平復帖 4 三月一日文書 5 出師頌

イ () に入る適切な語句を1～5の中から一つ選べ。解答番号は

図版 F が書かれた時代については、四世紀前半頃とされているが、同時代の () 若年の時期に相当し、行草書が完成する過渡期の資料と言える。

- 1 太宗皇帝 2 懷素 3 顔真卿 4 空海 5 王羲之

ウ () に入る適切な語句の組合せとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

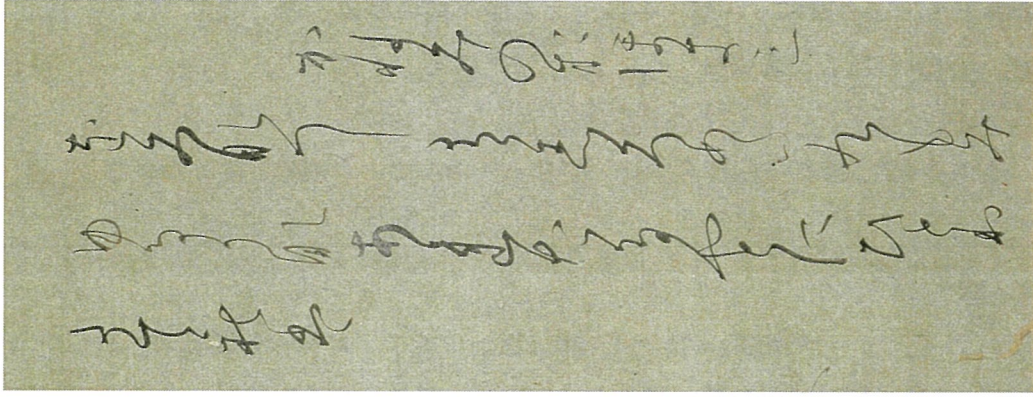
解答番号は

この作品は、第二次大谷探検隊によって一九〇九年三～四月ごろ、タリム盆地を流れるコンチ・ダリヤ下流の廢墟で発見され、現在では (①) に所蔵されている。

作品の内容から、西城長史に任ぜられていた筆者の (②) の (③) であることがわかる。書風は、漢以来の (④) 的用筆を残しながら、同時期の探検家 (⑤) やヘーデン発掘の文書中にも同様の書風が数多く見られる。

- | | | | | | |
|---|--------|------|------|------|---------|
| 1 | ① 京都大学 | ② 手紙 | ③ 浄書 | ④ 行書 | ⑤ スタイン |
| 2 | ① 龍谷大学 | ② 日記 | ③ 浄書 | ④ 隸書 | ⑤ アムンゼン |
| 3 | ① 京都大学 | ② 手紙 | ③ 草稿 | ④ 隸書 | ⑤ アムンゼン |
| 4 | ① 龍谷大学 | ② 手紙 | ③ 草稿 | ④ 隸書 | ⑤ スタイン |
| 5 | ① 京都大学 | ② 日記 | ④ 草稿 | ④ 行書 | ⑤ アムンゼン |

図版 G



ア 作品名を 1 ～ 5 から一つ選べ。解答番号は

- 1 本阿弥切 2 粘葉本和漢朗詠集 3 石山切 4 高野切第二種
5 関戸本古今和歌集

イ 図版 G について説明した 1 ～ 5 のうち、正しいものを一つ選べ。解答番号は

- 1 伝称筆者は藤原定家とされており、平安古筆の代表的作品の一つである。
2 もと後奈良天皇の御物であったが、本願寺の証如に下賜され、本願寺に伝えられた。
3 装丁は粘葉装で、もとは『古今和歌集』全二十巻を上下二帖に調じたものである。
4 料紙は鳥の子紙、白紙の他に紫・藍・茶・緑などの染め紙。濃淡を組み合わせ、縹緗彩色の効果を勘案している。
5 書写形式は行書きで、詞書は行頭から少し落とした位置から、作者名はさらに数文字下げて書かれている。歌はすべて三行で書かれている。

ウ 図版 G に関連して、古筆にはそれぞれの名称があるが、その名称の由来と名称の組合せを示した①～④について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、正しい組合せはどれか。

1 ～ 5 から一つ選べ。解答番号は

- ① 所蔵地・・・石山切、本能寺切
② 所蔵者・・・高野切、本阿弥切
③ 書写年代・・・元暦本万葉集、元永本古今集
④ 料紙の特色・・・筋切、通切

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ① × | ② ○ | ③ ○ | ④ × |
| 2 | ① ○ | ② × | ③ ○ | ④ ○ |
| 3 | ① ○ | ② ○ | ③ × | ④ ○ |
| 4 | ① × | ② × | ③ ○ | ④ ○ |
| 5 | ① ○ | ② ○ | ③ × | ④ × |

ついて、(1)～(4)の問いに答えよ。

- (1) ①～⑤に入る適切な語句の組合せを、次の1～5から一つ選べ。解答番号は 22

1 目標

書道の（①）な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる（②）を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて（③）とともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための（④）を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて（①）に構想し（⑤）豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の（①）な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

- | | | | | | |
|---|-------|---------|----------|------|------|
| 1 | ① 創造的 | ② 資質・能力 | ③ 理解を深める | ④ 技能 | ⑤ 個性 |
| 2 | ① 伝統的 | ② 知識・技能 | ③ 理解を深める | ④ 技能 | ⑤ 情緒 |
| 3 | ① 創造的 | ② 知識・能力 | ③ 技能を高める | ④ 能力 | ⑤ 感性 |
| 4 | ① 創造的 | ② 知識・技能 | ③ 技能を高める | ④ 能力 | ⑤ 感性 |
| 5 | ① 伝統的 | ② 資質・能力 | ③ 理解を深める | ④ 技能 | ⑤ 個性 |

(2) 書道Ⅱ「2内容 A表現 (1)漢字仮名交じりの書」における指導事項の内容ア、イ、ウについて、高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編では、アは「思考力・判断力・表現力等」、イは「知識」、ウは「技能」に関する資質・能力を示している。次の指導事項①～⑦をア～ウに分類したとき、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- ① 目的や用途、表現形式に応じた全体の構成
- ② 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素
- ③ 目的や用途、意図に応じた効果的な表現
- ④ 現代に生きる創造的な表現
- ⑤ 名筆や現代の様々な書の表現と用筆・運筆との関わり
- ⑥ 漢字と仮名の調和等による全体の構成
- ⑦ 感興や意図に応じた個性的な表現

- | | | | |
|---|------|------|------|
| 1 | ア①④ | イ②⑤⑦ | ウ③⑥ |
| 2 | ア③⑦ | イ②⑥ | ウ①④⑤ |
| 3 | ア①④⑦ | イ②③ | ウ⑤⑥ |
| 4 | ア①③⑥ | イ④⑦ | ウ②⑤ |
| 5 | ア①④⑦ | イ②⑤ | ウ③⑥ |

(3) 次の は、書道Ⅱ「2内容 B鑑賞」からの抜粋であるが、傍線部①～⑤のうちいくつかは誤った内容となっている。正しいものを○、誤っているものを×としたとき、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

(1) 鑑賞

イ次の(ア)から(エ)までについて理解を深めること。

- (ア) 線質①、結体、構成等の要素と表現効果や書風②との関わり
- (イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化③
- (ウ) 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書④の特質とその歴史
- (エ) 書の美と気候、風土、筆者⑤などとの関わり

- | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|
| 1 | ①○ | ②○ | ③× | ④○ | ⑤○ |
| 2 | ①× | ②× | ③○ | ④○ | ⑤× |
| 3 | ①○ | ②× | ③○ | ④× | ⑤× |
| 4 | ①× | ②○ | ③○ | ④× | ③○ |
| 5 | ①× | ②○ | ③× | ④○ | ⑤○ |

(4) 次の は、書道Ⅱ「3内容の取扱い」からの抜粋（一部の語句を補っている。）であるが、傍線部①～⑤のうちいくつかは誤った内容となっている。正しいものを○、誤っているものを×としたとき、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 25

- (1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、相互の関連を持つものとする。^①
- (2) 生徒の特性、^②学校や地域の実態を考慮し、内容の「A表現」については(1)（漢字仮名交じりの書）を扱うとともに、(2)（漢字の書）又は(3)（仮名の書）のうち一つ以上を選択して扱うことができる。
- (3) 内容の「A表現」の(1)については漢字は楷書、行書、草書及び隸書、仮名は平仮名及び片仮名、(2)については楷書、行書、草書、隸書及び篆書、(3)については平仮名、片仮名及び^③万葉仮名を扱うものとする。
- (4) 内容の「A表現」の指導については、^④篆刻を扱うものとし、生徒の特性等を考慮し、^⑤実用書等を加えることもできる。
- (5) 内容の「B鑑賞」の指導については、各事項において育成を目指す^⑥生きる力の定着が図られるよう、^⑦必要最低限の授業時数を配当するものとする。

- | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ① ○ | ② × | ③ × | ④ ○ | ⑤ ○ | ⑥ × | ⑦ ○ |
| 2 | ① × | ② ○ | ③ ○ | ④ ○ | ⑤ × | ⑥ ○ | ⑦ ○ |
| 3 | ① × | ② ○ | ③ × | ④ ○ | ⑤ × | ⑥ × | ⑦ × |
| 4 | ① ○ | ② × | ③ × | ④ × | ⑤ ○ | ⑥ × | ⑦ ○ |
| 5 | ① × | ② ○ | ③ ○ | ④ × | ⑤ ○ | ⑥ ○ | ⑦ × |

3

次の(1)～(8)の問いに答えよ。

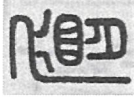
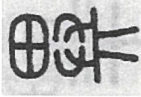
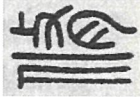
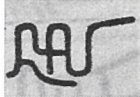

(1) 次の①～⑤の旧字体を常用漢字の字体(楷書)で書け。

- ① 鹽
- ② 回
- ③ 畫
- ④ 壓
- ⑤ 證

(2) 次の①～⑤のひらがなの字源を楷書で書け。

- ① あ
- ② か
- ③ と
- ④ む
- ⑤ ほ

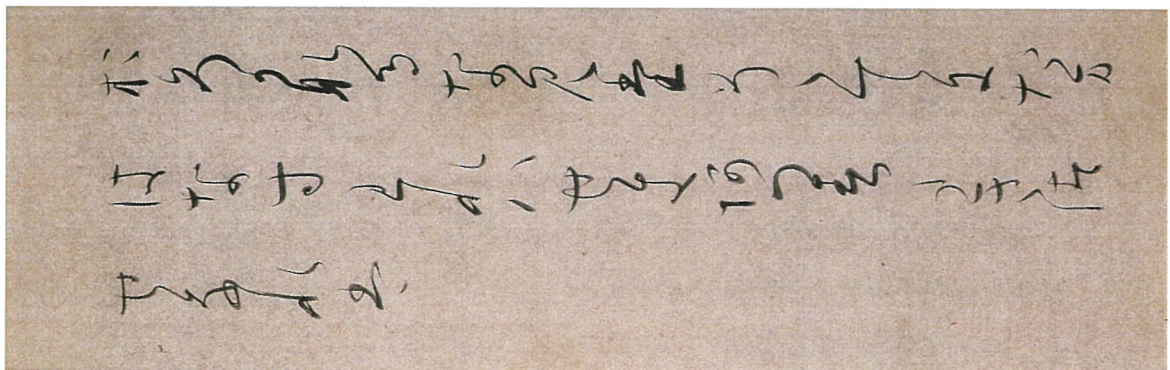
(3) 次の①～⑤に示す文字を楷書で書け。

- ① 
- ② 
- ③ 
- ④ 
- ⑤ 

(4) 次の①～⑤に示す文字を草書で書け。

- ① 萬
- ② 物
- ③ 在
- ④ 寒
- ⑤ 輝

(5) 次の図版の全文を、小学校国語科書写で表記する平仮名で書け。併せて、変体仮名についてはその平仮名の下に()をつけて原字を楷書で書け。



(6) 初唐の三大家と呼ばれる書家について、解答用紙の枠内にその人物名と代表作一点を書け。(順不同。解答は漢字楷書で丁寧に書くこと。)

(7) 次の文章（原文及び書き下し文）は、書譜の一節である。この文章の内容を現代文で記せ。

・ 原文

吾書比之鍾張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當鷹行。然張精熟。池水盡墨。

假令寡人耽之若此。未必謝之。

・ 書き下し文

吾が書は之を鍾張に比すれば、鍾には當に抗行すべし。或は謂く之に過ぐと。張の草にはなほ當に雁行すべし。然れども張の精熟すること、池水尽く墨なり。假りに令寡人をして之に耽ること此の若くなら令めば、未だ必ずしも之に謝らざらんと。

(8) 書道の授業で生徒に説明することを想定し、次の①～⑤についての説明を簡潔に記せ。

① 風信帖

② 用具・用材

③ 墨跡

④ 漢字の書体の変遷

⑤ 楊守敬

4

高等学校学習指導要領（平成三十年三月告示）第2章第7節 芸術 第2款第10 書道Ⅰについて(1)、(2)の問いに答えよ。

(1) 次の□は、書道Ⅰ「2内容 B鑑賞 (1)鑑賞」からの抜粋であるが、後の問いに答えよ。

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書の高さや美しさを味わって捉えること。

(ア) 作品の価値とその根拠

(イ) 生活や社会における書の効用

(問) 「(イ) 生活や社会における書の効用」について生徒が考え、書の高さや美しさを味わって捉えることを身に付けさせるためにはどのような取組みが考えられるか、具体的に書け。

(2) 「2内容 A表現 (3)仮名の書」の学習について 全四時間で「高野切第三種」を教材として、左記の指導計画を作成した。

高等学校一年生が初めて「仮名の書」を学ぶとき、各単元・指導目標及び単元の評価規準を踏まえ、学習活動①～⑤を書け。

時間	単元・指導目標	学習活動	単元の評価規準
第一時 仮名の成立と種類	仮名が成立する過程や、仮名の種類とそれぞれの性質を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ① 平仮名の字源について理解する。 平仮名と変体仮名の違いを理解する。 片仮名の成立と字源について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の成立について関心をもち、理解している。 漢字の伝来から仮名の成立に至る推移を理解し、種類について理解している。
第二時 仮名の用具・用材 仮名の基本的な筆使いについて	仮名の用具・用材の種類や扱い方を理解させる。 古筆の線質の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の用具・用材とそれぞれの特徴について理解する。 ② 連綿の種類を理解する。 基本的な筆使いを繰り返し練習し、仮名特有の用筆・運筆を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の用具・用材に関する基本的な知識や扱い方に関心をもち、理解しようとしている。 仮名の線質の特徴を捉え、それを表現するための用筆・運筆を理解している。 連綿の種類を理解し、習得している。 古筆に基づく基本的な線の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得している。
第三時 仮名の表現技能について 「高野切第三種」	「高野切第三種」の鑑賞を通して、古筆の用筆や表記に関する基本的な知識を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 「高野切第三種」の伝来や和歌の内容と大意、行書きの形式について理解する。 変体仮名の読みと字源について調べ、グループで共有する。 「高野切第三種」を鑑賞し、端正な字形や明快な線質からなる書風を感じ取る。 ③ 	<ul style="list-style-type: none"> 「高野切第三種」を鑑賞するための基礎となる知識を身に付けている。 字形や線質について、グループワークを通して、自らの気づきを発言し、他者の気づきと比較している。 「高野切第三種」に関心をもち、その美しさを味わっている。 「高野切第三種」の書風を的確に捉え、その美しさを感じ取っている。 「高野切第三種」を通して、書を構成する要素を理解し、臨書するための知識を身に付けている。
第四時 「高野切第三種」の臨書	「高野切第三種」の臨書を通して、字形や線質の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得させる。 全体の構成を考えて臨書する技能を習得させる。 表現と鑑賞の相互の関連を図ることを習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> ④ 前時に学習した全体の構成を考えて、これまでに習得した用筆・運筆を用いて臨書する。 ⑤ 自身のこれまでの理解と周りからの意見をふまえ、再度臨書する。 	<ul style="list-style-type: none"> 連綿について、グループワークを通して、その種類や技能を学習しようとしている。 「高野切第三種」に適した用筆・運筆を習得している。 「高野切第三種」の字形、構成について習得している。 「高野切第三種」の用筆・運筆の特徴を自分なりの言葉にして、周りの生徒に伝えることができる。 自身が臨書した作品と原本を比較して、字形・構成についての違いを周りの生徒に伝え鑑賞することができる。

